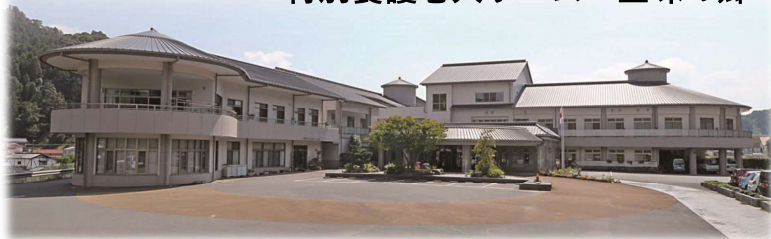


# 令和4年度ノーリフティングケア普及促進事業 モデル施設実践報告

## ノーリフティングケアで 新しい風を

～コロナ禍で取り組んだ1年目～

社会福祉法人 朝倉恵愛会  
特別養護老人ホーム 宝珠の郷



### ノーリフティングケアを普及・定着していくための 大きな壁（新型コロナウイルス）



今年度、新型コロナウイルスクラスターが二度に渡り発生

《1回目》7月～8月 《2回目》11月～12月



約4か月間、部署間の往来を制限。委員から全職員への普及・伝達研修が困難となり、活動が停滞する



「計画どおりに全く進まない！」「このままで大丈夫だろうか？」など不安が大きかったが、講師の先生方の「1年目だから1歩ずつ進めていけば良いですよ」の言葉に救われ、焦らず出来る事から着実に進めていく！

### 導入前の状況

腰痛者が多く、度々体調不良で休んだり、業務上制限を余儀なくされる職員が数名みられた。

福祉用具を保有し一部の利用者に使用していたが、ルールが曖昧で統一性や継続性が無かった。

（リフト・スライディングシート・ボード・グローブ）

近年でハード面の強化（眠りスキャン・インカムシステムの導入）で業務改善、働き方改革に取り組んできたが、ソフト面（職員のスキル）の強化が課題であった。



施設長（トップ）の提案により、本事業に申込み、研修に沿ってノーリフティングケアを施設に普及・定着していくことを決意！



眠りスキャン

### 取り組み状況

#### 施設内研修

毎月実施しているケアワーカーを対象としたミーティングと、全職員を対象とした研修会を活用し、ノーリフティング研修を実施。



#### 研修前

「時間がかかって遅くなる」  
「物を用意するのが面倒くさい」



#### 研修後

「あんまり腰が痛くなかった」  
「意外と時間がかからない」



## 実技研修に参加して気づいたこと（外部研修）

- ノーリフティングケアは単に福祉用具を使うことではない
  - 正しい介護技術福祉用具の活用で職員利用者ともに身体的、精神的不安のない介護
- ベッドの高さ
  - まっすぐ起立したときの拳の高さまで上げる事が大切（今使用している超低床ベッドでは高さが足りないので再検討が必要）
- スライディングシートのサイズ
  - 小さいサイズのみ所有していた（頭から腰まで覆うことができる大きいサイズがよい。畳んでも使用できる）
- スライディングボードのメーカー変更
  - ボードの選定に注意すること。どれでもいい訳ではない

## 環境（福祉用具）の変化

ノーリフティングケアに取り組む前

- ①スライディングシート  
：4枚（Sサイズ）
- ②スライディングボード  
：8枚  
（フレックスボード1枚含む）
- ③リフト  
：1台（使用していなかった）



ノーリフティングケア研修参加後

- ①スライディングシートの見直し  
M・L…各10枚 追加
- ②スライディングボードの見直し
  - ・イージーライドM 10枚追加
  - ・フレックスボード 3枚追加
- ③リフト使用開始 2名
- ④スライディンググローブ  
：20組 ケアをする全職員へ配布

## 事例 K・M様 移乗方法の見直し



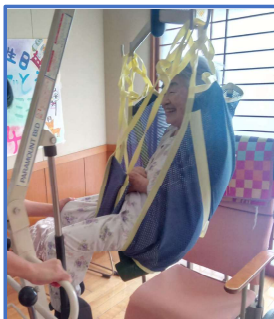
以前からスライディングボード使用。職員は負担が少なく安心安全な介助を行っているつもりだったが、本当に移乗方法が適切だろうか？

スライディングボードで移乗

- ・移乗時、全身に力を入れられ、しかめっ面になる時があった
- ・職員2人必要になるため、臥床の順番を待つて頂くことがあった
- ・時間が迫っている時などは、ボードを使わない職員もいた
- ・勢いをつけて移乗する事があり、職員・利用者共にリスクがある

リフトでの移乗に変更

- ・移乗時の利用者の緊張がなくなり表情が良くなった
- ・業務効率の改善～利用者を持たせない（職員2人→1人で移乗できる）
- ・移乗の統一ができるようになった
- ・利用者とのコミュニケーションの時間が増えた
- ・職員の腰痛リスクの軽減に期待できる
- ・皮下出血や皮膚剥離が減少



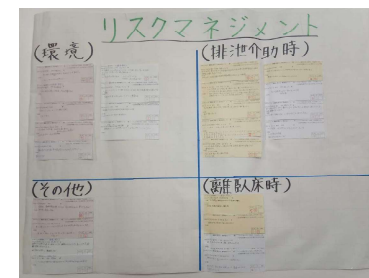
## リスクマネジメントの取組み

【腰痛ヒヤリハット報告】  
職員に腰痛に対するヒヤリハット報告を出してもらい、リスクの抽出

【委員会開催】  
リスク分類し優先度の選定  
アンケートで一番意見が多かった「オムツ交換」の腰痛予防策を検討

腰痛予防策として  
①就業前のラジオ体操の実施  
②重度の腰痛保持者と個別面談（健康管理担当者）  
③オムツ台車に「簡単体操の方法」を設置。中腰姿勢のリセットの声掛け

現場に周知及び実施状況の確認と見直し



## 職員の意識の変化（職員の声）

実技研修で福祉用具（スライディングボード）を使用して実際に介助を行う事で、腰部への負担軽減を**実際に感じる**ことができた。



実技研修を受けて、どの福祉用具がどんな**利用者に適しているか**を考える意識が芽生えるようになった。



オムツ交換時は**ベッドの高さ**を上げ、ベッド枠を外して実施するようになった。

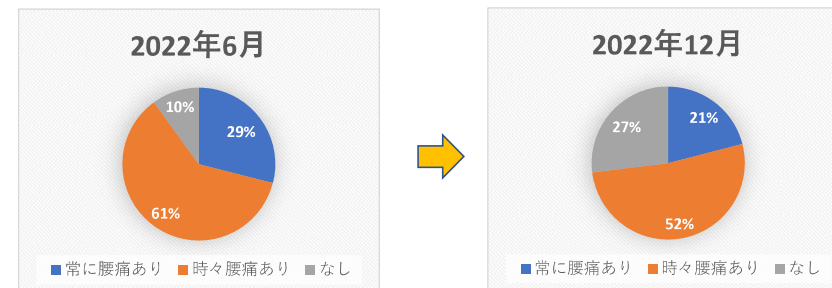


**身体の使い方**を実践の中に意識しながら取り入れることができてきた。（重心の位置、支持基底面、体重移動など）



## 腰痛調査結果とヒヤリ・事故発生件数

### 腰痛アンケートの結果



### ヒヤリハット・事故発生件数比較（2021年9月～12月：2022年9月～12月）

	ヒヤリハット	事故※1
2021年度	13件	16件
2022年度	49件	8件

※1 転倒・転落（ずり落ち含む）・打撲・皮下出血・皮膚剥離

## 成果と課題

### 成果

- ☆腰痛保持者・事故発生件数の減少
- ☆職員の**意識の変化**
  - ・ノーリフティングケアの必要性の理解
  - ・個人の身体の向き合い方、腰痛予防の意識の芽生え
- ☆ノーリフティングケア委員会**活動の定着化**

### 課題

- ◇コロナ禍でも**継続して活動**できる手法の検討（福祉用具も含め）
- ◇入浴・排泄介助場面でのノーリフティングケアの導入
- ◇研修計画・教育の**継続性**
  - ・リンクスタッフを増やす
  - ・教育体制や手法の見直し
- ◇情報発信・普及活動

## 最後に・・・

### ノーリフティングケアを通して

- ①腰痛をなくす。
- ②利用者の二次障害を引き起こすケアを廃止する。

この2点を目標に、教育・組織体制を整え2年目も取り組んでいきます。

### 大切なのは、

**職員一人ひとりが「働き方を変える」意識をもてること**

（ノーリフティングケア実践マニュアルより抜粋）